



令和4年

4月



月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

■塗りつぶしの日 は休館です。

『不思議の国ニッポン』

クーリエ・ジャポン/講談社/302.1 ｸﾘ

なぜ日本人は銀メダルでも謝罪するのか？なぜ日本人の自殺率は高いのか？なぜ日本人は義理チョコを贈るのか？外国人記者たちの疑問を列挙する。海外メディアだから書けた、日本の「いま」、そして「未来」。日本に住む日本人が気づかない、世界から見た日本を知ることができる一冊です。



『レインボーブックガイド』

草谷桂子/子どもの未来社/019.5 ｸﾏ

虹のように広がる生き方を、絵本から見つめてみませんか。多様な性と生の絵本を「自分らしく、あなたらしく」「多様な性・多様な家族」「子どもをとりまくさまざまな問題」「未来につなぐ」等に分類し、232冊紹介します。



『思考実験』

榛葉豊/講談社/116 シﾝ

人類は未知のものに出会うたびに思考実験を繰り返し、前に進んできた。仮説をどう立てるかも、設定をどう変えるかも、頭の中では自由自在。人生の岐路においても有用となるその手法を、思考実験の「名作」を解析して学ぶ。

『「新しさ」の日本思想史』

西田知己/筑摩書房/121 ニｼ

単に「現在」を示す「新しい」という言葉が、いかにして幕末維新期に大衆をリードするまでに変貌したか。復古思想とのせめぎ合いの中、明治以降の高度な外来の文化を受け入れる下地となる学術や思想がどう育ってきたかを検証。

『まだ間に合う』

藤崎一郎/講談社/159 ﾌﾝ

「まず自分の将来を考えなさい」「いま話題のことだけでなく社会の枠組みに関する勉強をする」とい「いまからやれば間に合うよ」…。元駐米大使が次世代へ向けて本音で綴った、学生時代・社会人・国際人の心得。

『気候適応の日本史』

中塚武/吉川弘文館/210.1 ナｶ

古来、人びとは気候変動にいかに対応してきたのか。古気候復元の最新データと史資料を照合し、気候変化のスピードが社会に与えた影響という視点で、弥生時代以来の日本の歴史全体をとらえなおす。

『お茶と権力』

田中仙堂/文藝春秋/210.4 ﾀﾅ

利休はなぜ信長、秀吉に重用され、最後に秀吉から疎んぜられたのか。利休を追放した秀吉がたどり着いた、茶に対する最終的な境地は何であったのか。「茶会」という場を通して眺めた異色の戦国史。

『鎌倉幕府はなぜ滅びたのか』

永井晋/吉川弘文館/210.4 ナｶ

窮乏する御家人、旧式化した騎馬武者の合戦、悪党の活動、分裂した王家…。幕府政権が揺らぐなかで起きた、後醍醐天皇による討幕運動。鎌倉末期10年の政治と合戦を詳述し、幕府滅亡の理由を問う。

『万国お菓子物語』

吉田菊次郎/講談社/383.8 ヨｼ 文庫

政略結婚によってフランスへ伝わったマロン、名称をめぐる裁判にまで発展したザハートル、大航海時代にポルトガルから日本にきたカスター…。名店「アルミッシュ」の創業者が綴る、お菓子101の誕生秘話。

『歴史を進めた植物の姿』

河野智謙/グラフィック社/470.2 ｶﾏ

ヒトの歴史はヒトだけが作り上げたものではない。歴史の重要なポイントで植物が大きな役割を果たしている。植物科学史を軸に、人に見出され、人の暮らしを変えてきた植物たちの戦略を読み解く。

『アリの美しい建築』

ウォルター・R.チンケル/青土社/486.7 ｱﾘ

アリの巣に設計図はあるのか？巣の構造は種によってどう異なるのか？巣は環境にどんな影響を与えるのか？アリの巣にまつわる疑問を掘り下げ、地球上で最も成功した生き物についての科学的発見と博物学的知識を提供する。

『ビーバー』

ベン・ゴールドファーブ/草思社/489.4 ﾎﾙ

特殊すぎる生態、意外と深い人類との関わり、そして環境問題解決の最終兵器…。究極にエコな治水システムとして脚光を浴びているビーバーの知られざる側面を余すところなく紹介する。

『まちづくりの統計学』

宇都宮浄人/学芸出版社/518.8 ﾕﾂ

統計の基本を知らずしてまちづくりを語ることはできない。政策立案のための問いの立て方、統計情報の見方・使い方から、テーマ別の考え方で優しく解説。地域の姿を正しく読み取り根拠に基づく政策をつくるための手引き。

『キテレッツ城あるき』

長谷川ヨシテル/柏書房/521.8 ﾏｾ 青少年

鉄板をはり付けた天守、別の城のデザインをパクって築いた天守、球体をした謎の石垣、地蔵や墓石などを使った石垣…。「天守」「石垣」に注目し、全国の城のとおきのお話を紹介する。データ:2021年12月現在。



『10代と考える「スマホ」』

竹内和雄/岩波書店/547.4 ﾏｸ 青少年

中学生がネット社会を生き抜くために必要なことを知り、自分で考え、正解のない答えを探り出すための入門書。実際に起こったSNSのトラブルやゲーム依存等に触れながら、スマホを安全に使うためのルール作りについて考える。

『18世紀のドレスメイキング』

ローレン・ストーウェル/ホビー・ジャパン/593.3 ﾏﾞ

18世紀のジョージ王朝時代に特徴的な4つのガウン(ドレス)と、それに合わせたアクセサリーの作り方を紹介。各ドレスにまつわる貴重な資料写真を掲載しながら、当時のスタイルの特徴についても解説します。型紙付き。

『絵本の世界の可愛いクッキー』

上岡麻美/マイナビ出版/596.6 ｶﾐ

なかよしのルーとリーが四季の森に遊びに行く物語を掲載し、そこに出てくる、可愛くて美味しそうなクッキーの作り方を写真で丁寧に説明します。解説動画を視聴できるQRコード、オリジナル型紙のダウンロードサービス付き。

『ベリーの文化誌』

ヴィクトリア・ディッケンソン/原書房/625.6 ﾃｲ

森や野原、小道や生垣にひっそりとなるベリー。さまざまな種類の特徴から、採集と利用、栽培、伝承や芸術、健康効果まで、ベリーの魅力を探訪する。カラー図版約100点も掲載。

『地図鉄のすすめ』

今尾恵介/昭文社/686.2 ﾏﾏ 文庫

川の下にある鉄道トンネル、火山地形を通る鉄道、新京成が身をくねらせる理由、幻の鉄道路線…。過去の鉄道とその背景にある日本の姿と変貌を、地図のカースマが解き明かす。

『音楽する脳』

大黒達也/朝日新聞出版/761.1 ﾏｲ

優れた音楽を創り出す作曲家たちや、超絶技巧を繰り広げる演奏家たちの脳はどうなっているのか。音楽が人の脳にもたらす意外な効用とは。音楽科の頭脳を大解剖し、クラシックを味わうための「音楽と脳の最新研究」を紹介する。

『英語が出来ません』

刀裨館正明/KADOKAWA/830.7 ﾏﾞ 文庫

なんでこうなの、ニッポンの英語。自らも辛酸をなめてきた一記者が、学生から自動翻訳の研究者まで、様々な人々や業界を30年近くにわたり取材。英語に翻弄され続ける日本人の姿を追う。『朝日新聞』等連載を大幅に加筆修正。

『ふたつの波紋』

伊藤比呂美/文藝春秋/910.4 ﾏﾞ

現代詩が目指すべきは自己からの脱却か、意味からの飛躍か。山頭火・中也・太宰の魅力とは…。文学の最前線で活躍し続けてきたふたりによる、詩・朗読・古典翻訳をめぐる文学対談。『文學界』掲載ほかを書籍化。

『春の窓』

安房直子/講談社/Fア7 文庫

大人の孤独や寂しさをやわらかく包み込み込む、切なくも美しい極上の短編集。売れない絵かきの家を訪れた猫の魔法を描いた表題作をはじめ、どこかなつかしい、はらかな空想の時間へといざなう全12編を収録する。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

◆◆ホームページアドレス◆◆ <https://www.library.otsu.shiga.jp>

行事予定は裏面へ

